

令和3年度 久留米市立南筑高等学校教育指針（自己評価表）

[計画段階・実施段階]

教育目標		自他を大切にし、主体的に学び、考え、協働し、よりよい未来をつくる生徒を育てる。							
経営方針		年度重点目標		具体的目標		総合評価			
久留米市立の高等学校として、地域になくなくてはならない「応援したくなる学校」をめざし、「至誠、剛健、勤労」の三綱領と、「自他共栄」の精神のもと、「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を備えた、社会に貢献する人材の育成につとめる。 「三綱領」 (久留米市教育振興プラン) 「至誠」 自他に敬意を持ち、礼節を重んじる (つなぐ力) 「剛健」 飾らず、たくましくしなやかに (つらぬく力) 「勤労」 ベストを尽くし、責任を果たす (つくる力)		①	授業の質の向上	未来へつながる教育と学びの充実を図るために、クラスの特徴を活かした教育内容の見直しを行う。計画的な授業研修会を実施し、教職員のスキルを高める。		B			
		②	本校の特色となる取組の充実	N-Basis（行動基準）の目的や意義を共有し、対話や発問による指導・支援を通して、主体的によりよい行動を選べるように導く。					
		③	安心・安全な教育環境の維持	教職員自らが人権感覚を高め、全教科・全領域の教育活動を人権教育・多様性の尊重を基盤として展開する。					
		④	各種委員会活動の推進・機能化	教職員の働き方改革を推進しながら、定例の委員会活動を行い、効果的な情報共有を進め、効率化を図る。					
評価項目		本年度の具体的目標		具体的な方策		年度末評価		次年度の主要課題	
教務部	教務に関すること	新学習指導要領に沿った教育活動のための準備を行う	カリキュラム編成検討委員会を中心に新教育課程を5月中に練り上げ、令和4年度以降の特色化について全職員の共有化を進める。 観点別評価の本格導入を見据え、12月末までに教務内規の変更を行う。 成績処理システムに関わる管理体制の見直しを行う。	B B A	B	新教育課程は、1年次の確定はできたが、2・3年次分については調整を行い、早期に確定させたい。教務内規は、観点別評価と定期考査及び評定について次年度以降も検証・改善を行う。			
	広報に関すること	志願者数を確保する	昨年度の入試結果と入学動機を分析し、広報活動につなげる。 学校見学会の運営や学校案内パンフレットの企画を生徒主体で行い、成功体験を積ませることで自己効力感を醸成する。 中学校訪問を5月・10月頃に教職員1人につき2校を担当し、全教職員で積極的に行う。	B A A	A	全職員による中学校訪問を11月に実施した。入試要項等や説明内容等について事前の準備を入念に行い次年度以降も継続させたい。学校見学会についてはさらに生徒主導型を進化させる取り組みにする。			
	広報に関すること	授業力向上のための研修を充実させる	公開授業・整理会を年間10回程度実施し、年間を通して授業改善・授業力向上のための授業研修を行う。 互いの授業公開・参観を呼びかけ、授業改善・授業力向上を意識し、刺激し合う雰囲気醸成する。 授業改善を目的とする校外研修やオンライン研修等を奨励する。	A B B	B	より先生方の授業改善につながるよう、授業整理会のあり方など授業研修会のやり方を検討し、改善していく。また、専門家を呼ぶ、他校の公開授業を視察するなど外部からの刺激も必要である。			
生徒指導部	生徒指導	様々なことを自分事と考え、より良い行動ができる生徒の育成	指導内容に生徒が納得できるように、時間をかけた対話的指導を複数の教員で行う。 生徒がN-Basisを基盤として学校生活を送れるように、根気強く繰り返しの指導を行う。 18歳成人に対応できるように、地歴公民科と連携を図る。	A A C	B	繰り返しの根気強く穏やかな指導を学校全体で継続するための研修会が必要。 18歳成人については地歴公民科と話ができなかったため、会議の場を設ける。また、教員側の理解を深める手立ても必要。			
	生徒会活動	生徒の自主的活動及び自治活動の推奨とサポート	生徒会執行部を中心に、各委員会活動を活性化させるアイデアを出し、実践する。 生徒のリーダー性を養うために、学校行事を工夫しながら実施する。 部活動の活性化を目差し、1年生の部活動加入推進、各部活動の活動報告などを行う。	C A B	B	生徒会執行部は行事に関してはよく動いていたが、日常での学校生活向上を目指した委員会活動ができなかった。自分たちが必要な会議を自主的に開くことができるように導く必要がある。			
	校内・校外との協力	校内・校外との協力関係の構築	多角的視点を持って諸問題に対応するために、校内他分掌と連携する。 生徒達の活動を校外に発信するために、ICTを活用する。 人権推進委員会の活動を通して、生徒連の人権意識を高める。	B C B	B	校外への活動発信にICTを活用したいが、肖像権の問題もあり、Youtube利用などに向けては問題を精査し可能にできるようにする。人権推進委員会については、年度が代わるときの申し渡しをしっかりと行う。			
進路指導部	生徒に希望進路を発見・考察・決定させることができたか	自らの学びに繋げるために働くことに対する興味関心を育み、生徒自身の人生のビジョンを持たせる	体験型職業ガイダンスや、講義型職業ガイダンス等を年4回以上設けることで様々な情報や知識を与え、生徒自身が考える機会を増やす。 マナビジョンの性格診断や適正診断を通して自己分析を行い、自分で記録していくポートフォリオを活用して希望進路を収束させていく。 久留米市と連携し、久留米市内の職人の方から直接話を聞く機会を設け、地域に根ざした職業観も学ばせる。	B B A	B	次年度からは、教育支援業者との関わりが改善されるので、全ての教員が継続的に取り組むことができる環境を作り、早い段階から全生徒に周知していく。久留米市との連携は、継続・発展的に行っていく。			
	生徒に進路実現のための準備を十分にさせることができたか	進路を実現するための学力の向上を根幹とした面接・小論文指導を充実させる	全学年の学力向上のためにスタディーサポートを実施後、分析と勉強方法改善の講話を行い、教科と連携して第2回(9月)で大きな成果を出す。 3年生に対しては、早朝の公務員課外に加え、放課後勉強会を定着させることで入試の筆記試験対策を早期より行う。 小論文・面接練習の機会を充実させ、生徒が継続的に取り組むことができる環境を整える。 公務員希望者に対して、集中勉強会を公務員関係の専門学校と連携して行い最終合格者を増やす。	B B B B	B	スタディーサポートの結果をもとにした分析会を毎回行い、担任や教科の先生がより具体的に指導できるようなシステムを作る。また、公務員課外の仕組みを考え直す。面接練習は、指導する教員が固定しないようにしていく。模試の参加者の減少に対してシステムから見直す。			
	全職員が連携して進路指導を行うための土台・環境・方法づくりができたか	生徒に関する進路情報を全職員に発信・共有しながらも、職員研修を活用して指導力を向上させる	公開進路フォルダを充実させ、進路部通信も定期的に発行し、進路指導部以外の教員でも進路情報を知ることができる環境を整える。 外部講師による小論文や面接、教科指導に関する職員研修会を行い、校内の進路指導レベルの向上を行う。 PTAIによる大学訪問に代わる行事を実現し、就職者へのPTA面接練習会にも教職員が参加できるようにすることで、一体となって指導できる環境を作る。	B C A	B	朝礼シートなどを利用して極力その日の来校者や合格発表日を知らせたので、継続しつつ、新しい情報を提供する。進路指導に関するPTAとの連携も積極的に進めていく。また、3学年との連携をきちんと行う。			
保健環境部	生活指導	心身ともに健全な学校生活の促進 安全な学校生活の充実	感染症予防のため、手洗いや手指消毒を励行する。マスクを外す昼食時には、校内巡回や生徒会保健局からの放送によりマナーを徹底させる。 保健だよりの発行、生徒会保健会の活動を通して、健康に関する意識や行動について啓発する。 万一の災害に対応できるように、学校生活で考えうる状況設定を行い、避難訓練を行う。	A A A	A	感染症対策については次年度もこのまま行っていく。保健だよりも生徒指導部と連携して発行することができた。避難訓練については、消防署との日程が合わなければ、年度の早い段階で学校独自で行ってもよいと感じる。			
	学習環境の整備	清掃の徹底とゴミ捨てのルールの順守	毎日の掃除の時間において、クラス名簿を活用し役割分担を明確にすることで、全員で清掃に取り組むことができるようにする。 ゴミの持ち帰りの呼びかけや資源ごみの分別の徹底を図るため、ポスター掲示や生徒会からの呼びかけを行う。 校内美化に主体的に取り組めるように、済美委員を中心に各学期に1回学習環境整備の取り組みを行う。	A B C	B	校内安全点検は毎学期行った。校内の危険箇所は確実に修繕していく必要あり。その他にも学習環境整備の取り組みについて昨年度行った取り組みと違う案を実施しようとしたが、うまく実行に移すことができなかったため、来年度取り組んでいきたい。			
	その他の諸活動	様々な事情を抱えた生徒、保護者、担任などへの支援の充実 奨学金制度などの支援情報の発信	支援を要する生徒の実態を把握し、修学支援委員会や学年担当者会などで情報を共有し対応する。 特別支援教育について、個別の支援計画を作り、関係職員と共有する。 大学予約奨学金など、学年と協力し必要な家庭に必要な情報が届くように情報発信に努め、事務手続きに万全を期す。	A B A	B	修学支援委員会や日頃の情報共有などを通して、生徒対応に当たった。次年度はケース会議の定例化に取り組みたい。奨学金の手続きは例年と変わらず多かったが、担任の先生方と連携して滞りなく行えた。			

評価項目		本年度の具体的目標	具体的な方策	年度末評価	次年度の主要課題	
総務部	校務運営	各分掌・学年との連携の強化	式典や行事の企画・運営・記録を滞りなく行う。	A	A	必要な時に利用しやすいよう、過年度の文書やデータの管理を適切に行う。
			会議資料の準備・記録・管理を徹底する。	A		
			校務に必要な文書や冊子を迅速に発行する。	B		
	PTAとの連携	PTA活動の支援	役員会・理事会等の準備・運営を支援する。	B	B	来年度の役員・理事・クラス委員への活動引き継ぎが円滑に行われるように、情報提供や連絡を行う。
			感染拡大防止に配慮した上で、実施できる活動の支援と協力を行う。	B		
文書やメールによる連絡の徹底を図る。			B			
情報の発信	学校HPの積極的な活用	各分掌・学年や部活動と連携し、情報の収集と発信を行う。	A	A	HPについては、各分掌・学年からの情報をこまめに収集し、学校活動のPRに繋げる。また、百周年の関連事項も随時発信する。	
HPで最新の情報が得られるよう、更新を随時行う。	A					
その他	教職員の福利厚生充実	教職員互助会・共済組合の事業案内や本校親和会の適切な運営に努める。	B	B	休憩室の利用促進を行う。	
第1学年	生活指導	基本的な生活習慣の確立	様々な活動を通して規範意識の醸成に取り組み、N-Basisを基盤とした学校生活を送れるようにする。	B	B	新1年生の模範となるようN-Basisをさらに徹底させ、中堅学年にふさわしい学校生活を送れるようにする。生徒が主体的に行動できるような場面や環境を設定し、修学旅行へとつなげていく。
			挨拶や清掃、時間を守るなどの社会規範を守り、主体的に行動できる生徒を育成する。	B		
			学年実行委員会を中心とした活動に取り組みさせることで、自治能力や社会性を身につけさせる。	A		
	学習・進路指導	基礎学力の向上	Nノートを活用し、家庭学習の習慣を定着させる。	B	B	各自が自分の希望進路に必要な事柄を明確にし、進路実現に向けてさらに具体的な目標を設定する。 ・資格取得の意識を高める。 ・Nノートに取り組み意欲が高まるような課題を課す。
			進路指導部と連携し、将来の目標を明確にすることで学習意欲を高める。	A		
			今来手帳の活用や行事の振り返り等を通して、思考力・判断力・表現力を身につけさせる。	B		
その他	人権・同和教育の充実と保護者との連携	すべての教育活動を通して、人権感覚の醸成に努める。	A	A	人権課題に対し自分事として取り組む姿勢を育て、日常生活で人権を意識した行動ができるようにする。アンケート結果や生徒の悩みに丁寧に対応し、相談しやすい環境を作る。	
		学校生活アンケートや教員同士の情報の共有により、生徒の悩みや不安に迅速に対応する。	A			
		家庭訪問（三者面談）や学年通信の発行などを通して、保護者との連携を深め、個に応じた細やかな指導を行う。	A			
第2学年	生活指導	すべての教育活動を通して、主体的に行動できる生徒を育成する	N-Basisを基盤とし、学年集会や二者面談を通して規則やルールを主体的に理解させる。	B	B	コロナ禍において行事の縮小、中止などがあり、学年実行委員の活動の場が少なかった。次年度は生徒が主体的に行動できるように学校行事などで活動する場を増やしていきたい。
			時間を守ること、自主的な清掃、挨拶の励行を定着させ、主体的に行動できる生徒を育成する。	B		
			各行事において、学年実行委員会を中心とした活動をさせることで、自治的能力やコミュニケーション能力の育成を図る。	B		
	学習・進路指導	社会人としてのマナーのスキルアップと、2年後の進路実現に向けた学力	Nノートを活用し、家庭学習の習慣を定着させ、表現力を高める。	A	B	フォームのアンケートを活用して、行事の振り返りは出来たが、今来手帳の活用が徹底できなかった。今年度も週1回のNノート活用だったので、次年度は進路に向けての家庭学習の定着を徹底していく。
			進路指導部と連携し、将来の目標を明確にすることで学習意欲を高める。	B		
			授業や修学旅行、久留米市雇用事業、マナー講座などを通して、職業観の育成やマナーのスキルアップを図り、進路実現に結びつける。	A		
その他	自他共栄の学びの中で、2年後の進路実現に向けた学力の向上と人権感覚の醸成を図る	すべての教育活動を通して、人権意識の高揚と人権感覚の醸成に努める。	B	B	人権感覚の醸成を図るために、当事者の方の講演会を実施し、当事者との関わりを持てるような人権授業を計画していきたい。コロナ禍において様々な悩みを持つ生徒が多いので、三者面談等を充実していきたい。	
		学校生活アンケートや教員同士の情報の共有により、生徒の悩みや不安に迅速に対応する。	A			
		三者面談や月1回の学年通信の発行を通して、保護者との連携を深め、個に応じた細やかな指導を行う。	C			
第3学年	生活指導	最高学年としての自覚を持ち、自主的に行動できる集団の育成	N-Basisを基盤とした規則やマナーを理解させるため、生徒会と協力して各種委員会を学期に1回は開催する。	C	B	学年主催の各種委員会を開くための独自の時間設定が必要であった。学校生活に乱れが出ないようにする方策は立てることはできたが達成にはより具体的な方策を立てなければならないと感じた。
			体育祭などの学校行事を通して一人一役を尊重し、集団の力を増強することを体感させる。	A		
			進路決定後も学校生活に乱れがでないようにするため、学年目標や学級目標を常に意識させる。	B		
	学習指導 進路指導	自他共栄の精神のもと、進路実現に向けて主体的に学び続ける集団の育成	進路実現に向けた取り組みとして、現在来手帳や各種配布ノートを有効活用し、キャリア教育を充実させる。	B	B	学力向上の対策は講じたが、下位層の底上げは不十分だった。より細い目標設定が必要であった。進路指導部と連携した作業手順では見通しの甘さがあった。教員、分掌間の連携強化が更に求められる。
			進路実現に向けて学習会を開講し、学力上位層の強化・学力下位層の底上げを目指す。	B		
			進路指導部と連携し、きめ細かな情報交換と全生徒の進路を保障するための信頼関係を深化する。	B		
その他	好ましい人権感覚を醸成し、人としての資質を高め、行動に移せる集団の育成	正しい知識と人権感覚を高めさせるため、全教科・全領域で人権・部落問題学習に取り組む。	A	A	好ましい人権感覚に対する醸成は十分に達成できたと感じている。学年通信においては各月ではなく、要所で発行するよう頻度を調整すると進路業務への負担が軽減するのではないかと。	
		学校生活アンケートから生徒の悩みや不安に気づき、担任・副担任を中心に情報を共有し学年全体で解決に向けて取り組む。	A			
		生徒や保護者と情報を共有するため、学年通信を月1回発行する。	C			
人権・同和教育推進委員会	人権・部落問題の克服に向けて、意識を高める研修の計画	人権・部落問題の実態からの学び取り組み	校内研修で当事者や専門家からの話を聞く場を設定する。	B	B	人権・部落問題学習の授業前に当事者などから話を聞く場面を設定し、担当者や担任の先生方に参加してもらったが、全体として参加するような研修会や学習会は実施できなかった。
			学年や各自でそれぞれの課題に合わせ、人権・部落問題に関する学習会・研修会等への参加を呼びかける。	A		
			本校の人権・同和教育に関するこれまでの取り組み、課題等についての研修会を実施する。	A		
	人権・同和教育の推進	全教科・全領域における人権・同和教育の実践	人権・部落問題学習授業について、生徒や教員の学びが深まるような実施内容や実施方法を検討していく。	B	B	人権・部落問題学習の授業後の成果と課題を次時の人権・部落問題学習に活かせるようにしていきたい。また、生徒の実態に合わせて、授業内容の見直しなども行っていく必要もある。
			人権・部落問題学習での成果と課題を記録・共有し、次の授業改善に活用する。	B		
			定例の会議などで校内の人権に関わる課題について協議する。	A		
連携した教育相談の推進	校務分掌や各関係機関との連携	生徒の実態や背景をつかむために学年や修学支援委員会と連携し、情報共有や対応検討の場を設定する。	A	A	各分掌や委員会等と更に連携を行い、人権・同和教育の視点に立った取り組みを促進する。生徒会の人権推進委員会を中心とした生徒の人権・部落問題に関わる自主的な学習を活性化させる。	
		行政や関係機関等と連携し生徒の修学保障・進路保障につなげる。	A			
		生徒会人権推進委員会と協力し、生徒を主体とした人権に関する取り組みを推進する。	B			